

# 野菜病害の有効薬剤 ～ピーマンうどんこ病～

## 1. はじめに

県内のピーマン産地ではうどんこ病（図 1）が問題となっています。主に薬剤による防除が行われていますが、発病が進行すると抑えることが難しくなります。そこで、うどんこ病発生時に効果が高い薬剤を選抜するため数種薬剤のほ場における有効性を確認しました。



図 1 ピーマンうどんこ病の病徴（左：葉表 右：葉裏）

## 2. 材料および方法

場内のガラスハウスにおいて、2022年11月9日に定植したピーマン‘京みどり’で試験を行いました。収穫期まで栽培し、うどんこ病の発病を確認してから「ピーマンうどんこ病」に適用のある薬剤（表 1）を散布しました。試験は1区4～6株3反復で行いました。薬剤散布は2023年5月2日から8～10日間隔で計6回行いました。最後に薬剤を散布してから11日後に処理区あたり100葉を発病程度別に調査し、発病度および防除価を算出しました。

## 3. 結果

供試薬剤のうち、トリフミン水和剤、パンチョ TF 顆粒水和剤、パレード 20フロアブル、シグナム WDG およびモレスタン水和剤が防除価 90 以上となり、うどんこ病に対して高い防除効

果が認められました。一方で、アフェットフロアブルとプロパティフロアブルはうどんこ病の防除効果が認められたものの、その程度は他の薬剤と比べて低いものでした（表 1）。ただし、無処理区における調査時の発病状況は少発生でした。

## 4. おわりに

本試験でピーマンうどんこ病の防除に効果の高い薬剤が明らかとなりました。今後の試験では薬剤耐性の問題にも配慮した防除体系を確立するため、各薬剤の残効性やうどんこ病菌の増殖抑制効果を評価する予定です。

（環境部 南方千景）

表 1 ピーマンうどんこ病に対する各種薬剤の防除効果

FRAC Code*	農薬名	希釈倍数	発病葉率 (%)	発病度	防除価
3	トリフミン水和剤	3000	1	0.3	97.7
3+U6	パンチョTF顆粒水和剤	2000	2.3	1	90.9
7+11	シグナムWDG	2000	1.3	0.3	97
7	アフェットフロアブル	2000	15.3	5.2	53
50	プロパティフロアブル	3000	9	2.8	74.2
7	パレード20フロアブル	2000	0.3	0.2	98.5
M10	モレスタン水和剤	2000	0	0	100
	無処理		33.3	11	

発病度 =  $\{ \sum(\text{程度別発病葉数} \times \text{発病指数}) \times 100 \} / (\text{調査葉数} \times 4)$   
 指数：0：発病なし、1：病斑が葉の5%未満、2：病斑が葉の5～25%未満、  
 3：病斑が葉の25～50%未満、4：病斑が葉の50%以上

防除価は発病度から算出。

防除価 90 以上：効果は高い、61～90 未満：効果はある、  
 41～60 未満：効果は認められるがその程度は低い、  
 40 以下：効果は低い

\* 有効成分の作用機構で薬剤を分類したもの。同じコードは同一系統を示す。

農業試験場ニュース No.143

令和 6 年 1 月 発行

編集・発行 和歌山県農業試験場

〒640-0423 和歌山県紀の川市貴志川町高尾 160

電話：0736-64-2300（代）FAX：0736-65-2016

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/top.html>